



# 日本物理学会 男女共同参画推進委員会 活動報告

## Recent activities of Gender Equality Promotion Committee, The Physical Society of Japan

市川温子<sup>1,2</sup>、肥山詠美子<sup>1,2</sup>、所 裕子<sup>1,3</sup>、小林夏野<sup>1,4</sup>、濱口幸一<sup>1,5</sup>

日本物理学会<sup>1</sup>、東北大学理学部物理学科<sup>2</sup>、筑波大学数理物質系<sup>3</sup>  
岡山大学異分野基礎科学研究所<sup>4</sup>、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻<sup>5</sup>

### ◆日本物理学会の男女共同参画推進委員会◆

日本物理学会は1877年に創立された会員数が約17000人の学会である。本学会の女性比率は創立当初からは増加したものの、2000年ごろから現在まで約10%程度で頭打ちとなっている。2002年に発足した男女共同参画推進委員会では、今後さらに多くの女性研究者が男性研究者と共に活躍し、物理学がますます発展するよう様々な活動を女性委員・男性委員半数ずつの委員構成で活動を行なっている。行っている。以下に、この1年間の主な活動内容を報告する。

### ◆基本方針◆

①女性研究者の研究・教育環境を改善する事、②次世代の女性研究者を育成する事を指針に、国内外の機関と連携して活動を行う。

### ◆活動報告◆

#### 【1】米沢富美子記念賞 第2回受賞者決定

物理学会では女性会員の活躍を讃え、奨励するために2019年度に米沢富美子記念賞を設立し、毎年受賞者を選考し、物理学会年次大会において表彰している。2021年度にはその第2回募集を行い、4名の女性会員に賞を授与した。

#### 【2】次世代教育支援

2005年度より本学会員を「女子中高生夏の学校」に実行委員会およびプログラム担当委員として派遣している。2021年度は新型コロナウイルス感染予防のためオンライン形式で開催され、8月8、9日の2日間で開催された。本委員会の担当委員が協力し、実験「光を聴く、音を光に乗せる」、ポスター「日常生活から究極の世界まで 万事に通じる物理学」の2つの企画に参加した。また、2006年度より継続的に「女子中高生のための関西科学塾」の支援をしている。2010年度から協賛金の形で支援をしてきたが、2021年度からは賛助会員として支援を行うこととした。



#### 【3】学協会連絡会活動

学協会連絡会運営委員会、大規模アンケート解析WG、シンポジウムに参加している。

#### 【4】国際交流

2021年7月11-16日に開催された The 7<sup>th</sup> IUPAP International Conference on Women in Physics に応用物理学学会と共に参加した。

#### 【5】秋季・年次大会での託児室の開設

物理学会では、毎年春と秋に全国規模の学術講演会を開催しており、どちらの大会も合計約5,000名の研究者が参加している。大会には託児室が設置され、事前に申し込んで希望すれば誰でも利用できる。託児室の運営は2019年度より本委員会が主体となっている。今年度は新型コロナウイルス感染予防のため大会がオンライン形式で開催され託児室も開設されなかったが、今後大会が対面で行われた場合に、感染予防が必要な状況で託児室を開設すべきかどうかの議論を行っている。

#### 【6】年次大会でのシンポジウム開催

2021年3月の日本物理学会第76回年次大会（オンライン開催）にて、本委員会主催のインフォーマルミーティング（ランチョンミーティング）をZoomを用いて開催した。参加者数は会議中の入れ替わりがあり変動したが最大46名であった。「リーダーシップをもつ若手女性研究者の育成について」というテーマで、科学・技術分野の次世代育成と環境づくりについて、男女共同参画推進委員より報告、若手奨励賞での男女比現状を共有した。その後、東京大学の勝本信吾理事から、最近創設された米沢富美子賞のねらいや意義について説明があった。参加者からの質問を踏まえたディスカッションを行い、次世代育成についての議題についての質疑応答が行われた。

#### 【7】広報活動

物理学会誌とHP(<http://danjo.jps.or.jp/>)に委員会報告やイベントごとに活動報告を掲載している